

同推くん

2002年3月20日

第16号



発行 海蔵地区同和教育推進協議会
事務局 海蔵地区市民センター内 (☎31-3284)

海蔵同推協10年の歩み～

◇皆様には常日頃から人権問題、特に同和問題についてご理解をいただき、誠に心強く、差別解消に情熱を燃やす海蔵同推協役員一同、心よりお礼申し上げます。

海蔵同推協も産声をあげて、はや10年たちました。試行錯誤の連続で十分な成果をあげることが、できたかどうか今一度、原点に立ち返って検討し、今後の活動に生かしていきたいと思っています。皆様、既にご承知のこととは思いますが、あらためて海蔵同推協の組織と活動状況を申し上げます。

◇組織としましては、会長以下各役員とで計8名、各団体代表<事業部 推進委員>(民生委員、保・幼・小・中のPTAの代表、育成会、婦人会、老人会、青少協、保護司の代表、小学校・中学校の教諭、事務局)の方々に26名(内役員兼任2名)自治会ブロック代表<推進委員兼啓発委員>6名、自治会各町代表<啓発部 啓発委員>22名(内役員1名)会計監査2名(委員兼任)、顧問(連合自治会長、市議会議員、社協会長、中学校長、小学校長、幼稚園長、保育園長、市民センター館長)で10名の陣容となっております。

◇また、啓発活動の内容としては委員研修(年3回程)、人権の集いの開催(本年は人権落語)、6ブロック7会場にての地区懇談会の開催、三同協・四同研への参加(役員研修)、『同推くん』の発行、神前地区との交流等です。

◇人権問題、特に同和問題については神前同推協との交流と並んで重要なのが地区懇談会です。各会場の運営には、当該ブロック代表(ブロック内自治会長の代表)、ブロック内の各町自治会長さん及び、ブロック内の各町啓発委員さんと役員2～3名が交替であっています。しかし、役員は自分の責任会場以外でも手の空いているかぎり、手伝い方々、全会場への参加を原則としています。それは、なるべく多くの講師さんの話を聞くことや、地区全体の皆さんの声を幅広く聞くことにより、爾後の啓発活動への足掛かりとしたり、自分自身を磨き高めるためです。

◇同和地区のない海蔵地区にお住まいの皆様にとっては、同和問題は「他人事」かも知れません。全く同和問題に係わらずに通る過ぎることもできるかもしれません。しかし、決して「他人事」ではないのです。同和問題の中で特に重要と思われる問題は「結婚差別」であり、「就職差別」です。例えば、あなた自身がこの問題を避けようとしても、子供さんや親戚に縁談があった時や、職場等で直接にまた、間接に係わらざるを得なくなる場合が出てくるかも知れません。その時に心ない差別で相手を傷つけたりすることのない行動ができるかどうか、重要だと思います。地区懇談会はその自分自身を見つめる為、また「明るく住みよい町づくり」を話し合う絶好の機会なのです。

しかし、「明るく住みよい町づくり」と言っても、言葉だけでなく、実感としてそう思える町ができなくてはなりません。同推協としては従来もそうしてきましたが、今後もより一層他団体との連携を深め、粘り強く活発な活動を展開していきますので、全地区をあげてのご支援の程、よろしく願いいたします。

あなたの町で地区懇談会が開催された時には、是非、積極的に参加をお願いします。あなた自身、そして子供さんのために、膝を交えて話し合しましょう。

◇さいごに「21世紀は人権の世紀」と言われています。しかし、これは20世紀が「戦争の世紀」と呼ばれ、世界中が戦乱に明け暮れたことへの反省から生まれてきた言葉であって、22世紀初頭に「21世紀は人権の世紀」であったと、過去形で言われるようにならなければいけないということなのです。くしくも海蔵地区同推協創立10周年は21世紀の幕開け、2001年と重なりました。21世紀はたった今、始まったばかりです。21世紀を人権の世紀にするもしないも私達、ひとりひとりの双肩に掛かっています。

「人権の尊重」は今や世界の潮流となっています。私達の取り組みは極めて小さいものですが、夢は大きく持ち、自由と安全が保証され、平等で差別の無い社会、人権が尊重される社会の実現を目指して頑張ろうではありませんか。



第10回 人権を考える集い

◆ “落語を楽しみながら人権を考える”

～古典落語と差別用語

「人権を考える集い」も今年で10回目となりました。今回は、落語を楽しみながら「人権とは何か」を考えていただけたらいいなと思い、街の落語家として有名な切磋亭琢磨さんをお招きして、人権高座を催しました。

従来は小学校の体育館を借りて開催していましたが、今回は師匠の希望で、センターの大会議室に会場変更と言うことになりました。しかし、例年通りの参加者があると、会場へ入りきれないと困りますので、小会議室にモニターテレビを設置して、そちらにも入ってもらおうということで準備をすすめました。その為、小学校でプロジェクターをお借りし、当日は、プロジェクターの操作や、口演の様様を録画するため、小学校の中野、山腰両先生にお出でいただき、最初から最後までお世話になりました。この紙面を借りて、改めてお礼申し上げます。どうも有り難うございました。

さて、以上のように準備を進めてきたのですが、いざ蓋を開けたら、参加者が意外に少なく、これなら小会議室を準備しなくてもよかったかなと思って、ちょっとびり残念に思いました。会場が狭いから遠慮しておこうと思われた方もあったのではないかと思います。しかし、参加された方にはとても好評でした。

開催にあたり、PR用のポスターの原画を作成して下さった、山手中学校美術部の生徒さん、会場の設営や運営などにご協力いただきました実行委員さん始め関係者の皆さん、中でも特に保育コーナーでお世話していただいた保育園や幼稚園の先生、保護者会やPTAの皆さんには、聞きたい落語や講話を聞くこともできず、我慢してお世話いただいたことと、申し訳なく思っています。縁の下の力持ちが居てくださるおかげで、この催しを無事に終えることができたことをご理解くださって、どうか、お許しください。

今年度の地区懇談会を振り返って

今年度の地区懇談会も、各町自治会長さんや各町の啓発委員さん、また、各町の皆様のご協力のおかげで無事に終了することができました。どうも有り難うございました。

参加人数については、以前に比べて減少気味ですがここ2、3年はあまり変わりありません。参加される方は、例年50、60代の方が主力となっていますので、今年は特に、若い方や初めての方に多くご参加いただくようご案内申し上げたのですが、残念ながら従来とあまり変わりありませんでした。「同和問題を考える」ということは、自分の人生、自分の生き方を考えるということにも繋がっているものですから、いろいろな都合もありかと思いますが、年に一度の機会ですから、ぜひご参加くださって多くの方々との討論や意見交換などにより、視野を広げ、より豊かな生き方を身につけていただきたいと思います。

※ 『人権を考える集い』アンケートに寄せられた感想の中から主なもの数件をご紹介します。

- (1) 落語には差別を表現する内容が多いことが分かった。女性蔑視、家父長制、けがれ、障害者を題材としたものなど。しかし、いろいろな人がいて社会は成立している。
生かされていると言うことを改めて感じ、人生を全うしたい。(20代女性)
- (2) 落語における人権差別について分かりやすかった。年々参加者が少なく、残念に思う。(30代男性)
- (3) 普段の会話の中にも、人権について考えなければいけない言葉や、会話があることを改めて知った。楽しく学ぶことができた。(50代女性)

- (4) 部落差別について触れられていなくて残念。(50代男性)
- (5) 古典落語は一般庶民の生活が背景となつて

うな言葉がたくさん使われており、人権を考えるには良い材料ではないかと思った。また、落語の後の講話では、口演した落語の中に出てくる差別用語や、人権に関わる行動(例えば、大切な用件は男がする)などの説明もあり、分かりやすい話で、たいへんよい勉強になった。(70代男性)

※ 『地区懇談会』アンケートに寄せられた感想の中から主なもの数件をご紹介します。

- (1) 結局は差別する側、許す側の問題。人はどうしても自分よりも弱い存在を作ってしまう、それを見ながらホッとしているのが多かれ少なかれあると思う。それが差別心なんだよね。歴史的にみても、部落が作られたのはそういうところから。だからこういう研修会は必要だと思う。ただ、人って弱いから「そうは言ってもねえ・・・」となってしまう。そういう心無くしていかないと。(20代 男性)
- (2) 何年か前にくらべ、差別意識の無い世帯が増えてきているものの、簡単に部落差別は無くならないと思います。同和についてもっと真剣に考えて欲しいと感じました。(30代 男性)
- (3) 大変有意義な会なのに、参加者が限られていることが残念に思います。無理に参加していただくわけにもいかないのでしょうか、人権意識が正しく広まるためには、もっと参加者が多くなるといいと思いました。(40代 女性)
- (4) ビデオは2回目ですが、1回目とはまた、違ったことを気付かされました。人間は忘れますので、時々同じ機会があってもよいと思います。人の心が一番問題で、相手の立場を思うと言うことが大切だと思います。(50代 女性)
- (5) 本日の懇談会は、今までの中で最高に良かった。また出席しようと思う。自分で気の付かない差別に気を付けるようにしてゆきたい。(60代 男性)